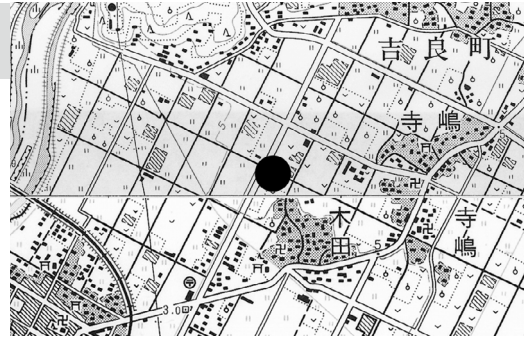


おかやまみなみ
岡山南遺跡

所在地 西尾市吉良町木田
(北緯34度50分14秒 東経137度4分40秒)
調査理由 道路改良工事 一般県道西尾幡豆線
調査期間 平成23年12月～平成24年2月
調査面積 910㎡
担当者 池本正明



調査地点 (1/2.5万「西尾・吉田」)

調査の経過 県道西尾幡豆線改良工事に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。

立地と環境 岡山南遺跡は矢作(古)川左岸の微高地状に位置している。周辺の遺跡としては、北側に所在する「岡山」と地元で通称される丘陵上に、弥生時代終末期を主体とする集落遺跡である中根山遺跡や、吉良八幡山古墳や若宮第1号墳をはじめとする前期～中期古墳が数基所在している。

調査の概要 調査区は中央に位置する水路によりA・B区に二分割して実施した。検出できた遺構は、江戸時代、奈良・平安時代、古墳時代に区分できるが、これらは特にB区で検出面の差にもなっており、上面から順に第1～3面と呼称している。

第1面は井戸・土坑・溝を確認した。このうち幅の狭い溝が主体となるが、分布は希薄となる。後述する旧河道はこの段階ではほぼ埋没しているが、B区ではこの上面から掘削された井戸(010SE)が確認できた。第2面はB区で2棟が切り合う竪穴建物を確認した。このうち残存状況が良好な030SIは、一辺5m程度となる。北辺中央には焼土や炭化物を含む土坑が確認できたが、この部分にカマドが設置されていたものと考えられる。第3面も検出できた遺構は希薄だが土坑・溝などがあり、幅20m程度の旧河道の両側に展開する。

調査区は微高地の端部に位置しており、遺跡の縁辺部と考えられる。出土遺物も多量とは言えないが、時期毎に特徴的な器種や、残存状況の良好な資料も含まれている。なお、旧河道の出土遺物にはローリングを著しく受けた弥生時代中期の資料も含まれており、当該期の遺構が近隣に存在している可能性もある。

(池本正明)



B区第2面全景 (西から)



B区竪穴建物 (南から)